

【熊本日日新聞社賞】

やまのせいくらべ
天草市立本町小学校 1年 倉田 愛莉

わたしは、ほいくえんのおはなしのときにも、このおはなしをきいたことがあります。ふたつのやまのどっちがたかいかな、あそのかみさまにたのんでせいくらべをします。

ひがしのやまが、じぶんのほうにみずがながれてきて、がっかりしています。

「もう、これからはいいださん。」といったとき、かみさまは、「せいはいくくても、りっぱなやまはたくさんある。あなたもいいやまだ。」と、ほめてくれました。

だれでもいいところはあるんだと、かみさまがおしえているようなきがしました。かみさまにいわれて、ひがしのやまが、「あ、そうだ。ぼくがつまらないことをいったから、こういうことになったんだ。」と、きづいたところがすごいなとおもいました。

にしのやまもかったけど、「じまんしてごめんね。」と、すぐあやまったので、いいなとおもいました。

いつもなかよくしていても、ちょっとしたことでけんかをすることはあります。

わたしは、そのともだちとおなじほいくえんで、なかよくはなしたりあそんだりしていますが、ときどきけんかみたいになるときもあります。

でも、いつもそのともだちは、「あそぼう。」と、さそってくれるので、とてもうれしいです。

わたしも、そのともだちのように、おともだちにやさしくこえをかけたり、あそびにさそったりしていきたいです。

これから、おともだちのいいところをたくさんさがして、みんななかよくたすけあっていきたいとおもいます。